

Injury Alert (傷害速報)類似事例

水筒の紐が遊具に引っかかったことによる縊頸 (No.31 フード付きパーカーによる縊頸の類似事例 1)

事例	年齢：5歳4か月 性別：女児 体重：22.7kg 身長：111cm	
傷害の種類	縊頸	
原因対象物	水筒（紐の長さ 39cm、紐の幅 2.5cm、図 1）、幼稚園の遊具	
臨床診断名	縊頸	
医療費	135,520 円	
発生状況	発生場所	幼稚園の園庭
	周囲の人・状況	幼稚園にお迎えに来た母に本児が引き渡された後、母は建物内で2歳の妹の世話をしていた。本人は通園リュックと水筒を身に着けたまま、1人で園庭の遊具で遊んでいた。
	発生年月・時刻	2020年6月X日（木） 午後5時00分
	発生時の詳しい様子 と経緯	高さ 1m30cm 程度の遊具（図 2）から降りようとした際に水筒の紐が遊具に引っかかり、水筒の紐で縊頸状態となった。1分ほどもがいた後に失神、園庭にいた数名の小学生男児が本児に気づき速やかに救助した。計2分ほど縊頸の状態だったと推測された。園庭に設置された防犯カメラの記録を、保護者および幼稚園教諭が確認したとのことであった。救助後すぐに母が接触した際、眼球上転および流涎を認めた。1分ほどで意識回復した。自家用車で医療機関を受診した。
治療経過と予後	来院時、意識は清明で神経学的異常を認めず、頸部に擦過傷及び紫斑、両眼周囲に点状出血を認めた。血液検査でアシドーシスは認めず、CPKの上昇も認めなかった。胸部単純X線写真で異常はなかった。耳鼻科診察で喉頭浮腫や粘膜下血腫は認めなかった。経過観察目的に同日に緊急入院した。翌日整形外科医による診察でも神経学的異常は認めず、頸椎単純X線写真でも異常は認めなかった。また、頭部単純MRIでも異常所見は認めなかった。経過良好なため、入院2日目に退院した。X+6日目に再診したが、神経学的な後遺症はなかったため、終診とした。当該幼稚園では、本事例以降、迎えの時間は園庭での遊びは禁止することとした。本事例の予防策としては、一定の重さがかかると紐が勝手に外れるような仕組みにする、首にかける道具・器具を装着したまま遊ばないなどの方策が考えられる。	

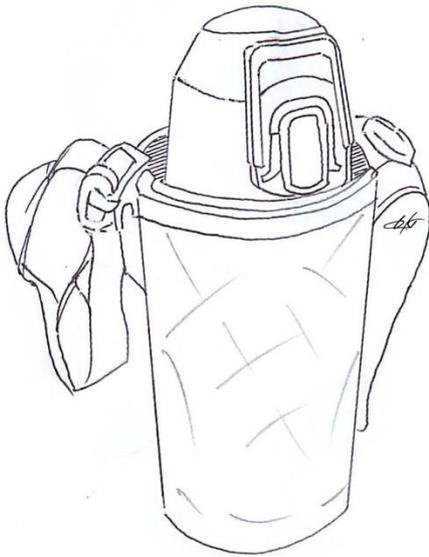


図 1. 原因対象物である水筒のシェーマ

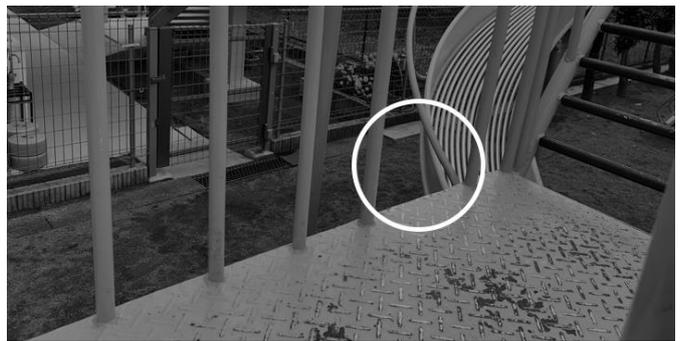


図 2. 幼稚園の遊具. 白丸部分が本児の水筒の紐が引っかかった部分である。